

未来の前提を問うスペキュラティブデザイン

— 事業に資する創造的未来洞察の探求 —



MITSUI & CO.
GLOBAL STRATEGIC
STUDIES INSTITUTE

三井物産戦略研究所
フォーサイトセンター
小林つばら

Summary

- 不確実性が高まる事業環境において、未来洞察では「正しさの予測」から「可能性の拡張」へ、未来像を描くデザインでは「問題解決」から「問題提起」への視点移行が重要性を増している。
- スペキュラティブデザインは、自由な批評的発想と「未来の具現化（プロトタイプ）」を核とする思考・手法であり、複数の未来の可能性を分析的に思考するシナリオプランニングと相互に補完しうる創造的未来洞察として注目される。
- 得られた示唆を事業に結びつけるには、2つの手法の補完による新たな視点の獲得、長期的な社会変化を見据えた事業設計、未来を自社の問題として捉える当事者意識の醸成・向上が不可欠である。

AIによる急速な進展、気候変動、地政学的混乱が重なる不確実な世界情勢の中、未来洞察の重要性は増している。未来シナリオの大量生成は容易になっていく一方、企業はありうる未来に対してどのような意味を見いだし関与するか、決断を迫られる。しかし、未来を1人1人が「自分ごと化」し、事業との関係性（前提・価値観・負担）まで考えることは容易ではない。

本稿では、シナリオプランニングに代表される分析的な未来洞察と相互に補完しうる創造的な思考・手法として「スペキュラティブデザイン」を取り上げ、その特性とビジネス応用における可能性・課題を整理する。

企業による実践例は見られるものの、総合商社のような事業創造の場からの報告は限られており、三井物産戦略研究所で試行した独自の検証を通じ、事業に資する視点を探る（図表1）。

図表1：本稿の視点

創造的な未来 × 分析的な未来
その相互的な補完とは？



出所：三井物産戦略研究所作成

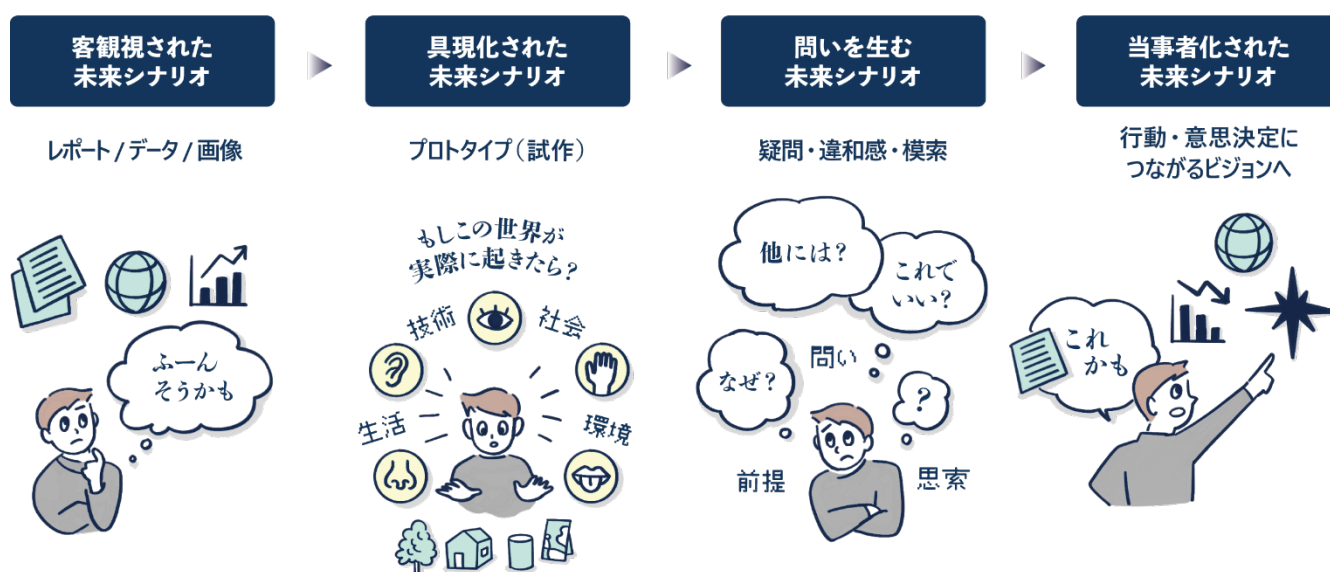
1. スペキュラティブデザイン

1-1. 核心：未来を「具現化」する

未来とは「いまだ来ぬ時」を意味する語でありながら、SF作家のウィリアム・ギブソンは「未来は到来している——ただ、まだ均等に行き渡っていないだけだ」¹と述べ、未来の萌芽が現在にすでに存在し、具体的なかたちで触れうることを示唆した。精緻な未来シナリオを前にしても多くの人にとっては抽象的な情報にとどまり、意思決定や行動に直結しにくいことは未来洞察の実務でもしばしば観察される。本稿で示す「具現化」とは、この抽象性を超えるためにありうる未来の状況を想像し、そこに存在するものをプロトタイプ（試作）として体験可能なかたちにすることによって没入感と当事者意識を高める行為である。

具現化から得られるのは「その未来が正解か」ではなく「自分はその未来でどう感じ、何を選ぶか」であり、五感を通じて生まれる疑問・驚き・葛藤という「問い」こそが、当事者意識の出発点となる（図表2）。

図表2：未来シナリオの「具現化」による当事者意識の醸成・向上



出所：三井物産戦略研究所作成

1-2. 位置付け：未来を「描く」2つの軸

未来を感受し描こうとする人類の営みは古来より多く存在するが、今日に続く方法論は、過去・現在の事実と兆候を根拠に読み解く「分析的未來洞察」と、事実のみに捉われず自由に発想する「創造的未來洞察」に大別でき、それぞれに多様なアプローチが派生してきた。

前者の代表例がシナリオプランニング²であり、政治やビジネスで戦略的に活用される未来洞察（フォー

¹ 1999年のNPRインタビューにて本人による発言。The Future Has Arrived - It's Just Not Evenly Distributed Yet. Quote Investigator (2012) <https://quoteinvestigator.com/2012/01/24/future-has-arrived/>

² シナリオプランニングについての詳細は三井物産戦略研究所によるレポートを参照：「未来をつくるシナリオ・プランニング ―発想の枠を広げるアプローチの探究―」藤井明子(2024) https://www.mitsui.com/mgssi/ja/report/detail/_icsFiles/afiedfile/2024/11/20/20241121_fujii.pdf

サイト)の中核として体系化されてきた。一方、後者ではアート・デザイン領域からデザインフューチャーズと総称される分野が発展し、そこに属するスペキュラティブデザインは未来の技術が人間の感覚や社会構造に及ぼす影響を再考する具現化の手法の1つとして展開している³。両者は同じ未来の不確かさを扱いながらも、アウトプットの形式(ナラティブ〈物語〉vs.プロトタイプ〈試作〉)や目的(戦略構造化vs.前提問い直し)の点で異なるため、双方の利点を組み合わせることで相乗効果を生むことができる(図表3)。

図表3：未来を描く2つの軸 — 分析的未來洞察 & 創造的未來洞察

	分析的未來洞察	創造的未來洞察	相乗効果
主な貢献	● 戦略判断の質を高める	● 問いの質を高める	● 意思決定の質を深める
何への耐性か	● 不確実性	● 既成の前提	● 前提の再解釈と戦略オプションの拡張
手法例	エビデンス	クリエイティビティ	
フォーサイト	● ホライゾンスキャニング 弱い兆しの継続的な収集・分析	● サイエンスフィクション 空想的科学の物語	● 引き出された問いを戦略判断と意思決定に翻訳
デザイン	● シナリオプランニング 複数の蓋然的未来を物語化	● SFプロトタイピング SF物語+試作による技術的探索 ● スペキュラティブデザイン 未来状況の具現化による挑発	● 兆しと蓋然的未来を体験可能な未来として具現化
アウトプット例	● シナリオ文書 ● 戦略的ナラティブ	● プロトタイプ/試作品 ● 文学的物語・架空技術	● 読むものと触れるものが連動することで理解・実感を深める
❗ 不得意な点	① 「もっとも起こりそうな未来」に焦点が寄りやすい 不連続な変化や規範的な問いを生みにくい ② 既知の延長線上のアウトプットになりやすい 読み手にインパクトを与えにくい ③ 短期志向の組織では作っても使われずに形骸化しやすい	① シナリオの根拠や成果の質を評価する基準が確立していない ② 「現実的な存在感」の実装設計が難しく成否が作り手の力量に依存しやすい 事業判断や実装への接続が弱い	● 分析的手法の戦略を創造的手法が思索を通じて意味を深める
★ 適用の利点	① 複数の蓋然的未来に基づく戦略的意思決定の支援 ② 複数シナリオに対する既存戦略の堅牢性検証と早期警戒シグナルの感知	① 既存価値観・倫理を含む前提の問い直し 未来状況の共創を通じた批評的対話 ②③ 読み手に気付きを与え当事者意識を喚起する	● 創造的手法の問いを分析的手法が事業判断・評価に接続する

出所：Popper (2008) "Foresight Diamond"、Auger (2013) "Speculative Design: Crafting the Speculation" (Digital Creativity)、Fu & Xia (2025) 等から三井物産戦略研究所作成

³ 類似する実践として、デザインフィクション、SFプロトタイピングなどがあり、いずれも未来の具現化を通じて問いや対話を引き出す点で共通する。デザインフィクションは、「虚構世界内のプロトタイプ」を用いる手法：Bruce Sterling, 2012. SFプロトタイピングは、SF的物語で技術の社会的影響を探索する：Brian David Johnson (Intel), *Science Fiction Prototyping*, Morgan & Claypool, 2011.

1-3. 狙い：問題解決ではなく「問題提起」

「スペキュラティブ」は「思索」を意味し、その実践は既成概念を批評するクリティカルデザイン⁴とSF的想像力を組み合わせた創造的未來洞察である。起源は1960年代のデザイン論にさかのぼり⁵、1990年代の建築や芸術を経て、デザイン研究者のダン&レイビー⁶により概念的枠組みが明確に提唱された。

その本質は、既にある問題への解決策の提示ではなく問いの生成にある。比較として、問題解決型アプローチの代表格であるデザイン思考⁷（人間中心の課題解決）が「答えを求める」のに対し、問題提起型では「前提を問う」ことを志向する。これは、単一の正解がない複雑な問題や、多様な価値観が交わる社会構造の構想に適する。未来洞察の核心は前提の問い直しにあり⁸、両者は異なる局面でそれぞれの役割を担う（図表4）。

図表4：問題解決型 & 問題提起型のアプローチ



出所：三井物産戦略研究所作成

1-4. プロセス：批評性と自在な応用

スペキュラティブデザインの実践において重要なのは、「未来を描くとき、自分たちは何を受け入れ、何にどう抵抗するか」を、より多くの関係者が議論できる状態をつくることにある。

この批評的な視点からありうる未来の状況に存在するものを具現化することで思索を促すという特性は、多彩なプロジェクトを生んできた。例えば、ダン&レイビーによる「英国が4つの自律的王国に分裂した架空世界：政治思想ごとに異なるモビリティの模型⁹」、Superfluxによる「食料資源枯渇に適応した2050年：昆虫養殖装置やDIY食料マシンのある生活空間¹⁰」、Changeist／国際赤十字・赤新月社連盟（IFRC）による

⁴ クリティカルデザイン：スペキュラティブデザインの思想的土壌にあたる。主に、現在ある社会環境や製品が日常で果たす役割への狭い思い込みを批評的に問い直すデザイン実践を指す。

⁵ 水野大二郎、寛康明、連勇太郎『スペキュラティブ・デザインが拓く思考——設計プロセスから未来投機的ヴィジョンへ』（2016, 10+1 website, LIXIL）<https://www.10plus1.jp/monthly/2016/04/issue-01.php>

⁶ アンソニー・ダン&フィオナ・レイビー（通称：ダン&レイビー）：デュオで活動するデザイン研究者・教育者。当時教鞭をとった英国ロイヤル・カレッジ・オブ・アートを拠点に、カルチュラルプローブ、クリティカルデザイン、スペキュラティブデザインの制作を展開。詳細は著書『Speculative Everything』（2013, MIT Press）を参照。

⁷ デザイン思考：ユーザーへの共感を起点に、問題の定義・発想・試作・検証を反復して課題解決に導く人間中心のデザイン。IDEOのTim Brownが体系化し、Stanford大学d.schoolが教育プログラムとして世界に普及させた。

⁸ 未来研究の4法則のうち、Sceptical Lawとして、支配的な前提を問い直す姿勢を未来研究の本質と論じる。Sardar, Z. "The Namesake" Futures 42(3), 2010. <https://doi.org/10.1016/j.futures.2009.11.001>

⁹ Dunne & Raby, *United Micro Kingdoms* (2012/13) <https://unitedmicrokingdoms.org/>; Dunne, A. & Raby, F. (2013) *Speculative Everything*, MIT Press.

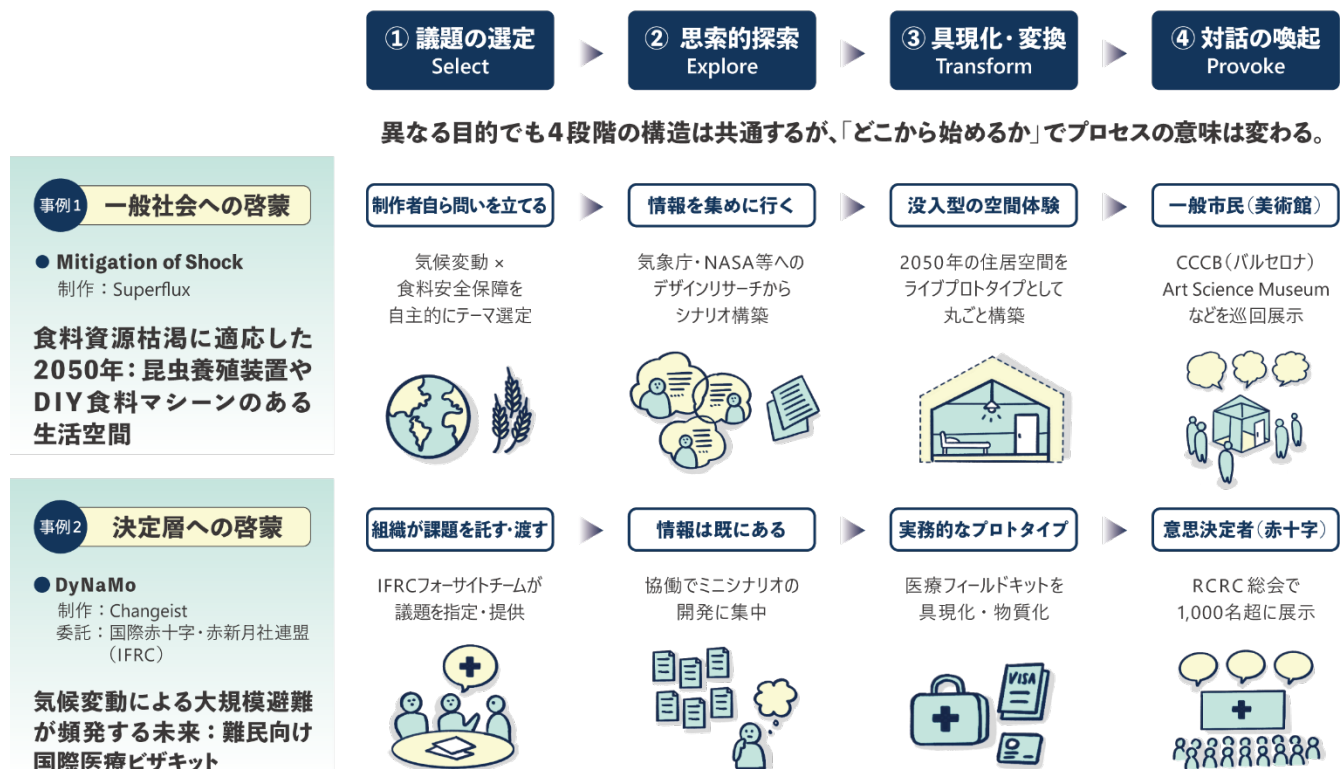
¹⁰ Superflux, *Mitigation of Shock* (2017-2019); <https://superflux.in/index.php/work/mitigation-of-shock/>

「気候変動による大規模避難が頻発する未来：難民向け国際医療ビザキット¹¹」などがある。いずれも未来を説明する代わりに、既に存在しているかのように提示することで、人間社会への適否・滑稽さ・違和感といった倫理的問いを引き出している（図表5）。

多くの実践に共通する大まかな段階として、①議題の選定（Select）、②思索的探索（Explore）、③具現化・変換（Transform）、④対話の喚起（Provoke）が確認される¹²。③でいかに具現化するかが、④での批評性と対話の質を大きく左右する。

ただし、各段階に至る固定的・統一的な方法論は確立していない¹³。多様な創造的未來洞察を包含するアプローチであることは、図表5に示したプロジェクトの目的・進め方・成果物の比較からも確認できる。自由度の高さは、取り組みや企業・組織ごとに異なる目的への応用を可能にする。

図表5：スペキュラティブデザインの実践に共通する4段階—目的の異なる2事例の比較



出所：Superflux (2019)、Changeist / Smith et. al (2017)、Cardenas Cordova et al. (2025) から三井物産戦略研究所作成

¹¹ Changeist (Smith, S. et al.), *DyNaMo (Dynamic National Mobility) -Speculative Humanitarian Futures-* (2017) <https://www.collisionsdetector.com/archive/speculative-humanitarian-futures-65ad2215daf65a001b43e435/>

¹² 関連文献やツールキットを体系的に調査した研究：① Cardenas Cordova, D., Kelly, N. & Rezayan, L. (2025) "A systematic literature review of the speculative design process and a proposed framework for speculative design." *Design Science*, vol. 11, e38. Cambridge University Press. <https://www.cambridge.org/core/journals/design-science/article/systematic-literature-review-of-the-speculative-design-process-and-a-proposed-framework-for-speculative-design/DEEE583F28D2A32AA5965BF85608C17A> ② 岩寄博論 (2025) 「政策立案のための未来洞察におけるデザインの役割」『ソーシヤルクリエイティブ研究』第2巻, pp. 1-21. 武蔵野美術大学

¹³ *It was more of an attitude than anything else, a position rather than a methodology.* Dunne, A. & Raby, F. (2013) *Speculative Everything*, MIT Press, p. 34.

2. 企業・組織による実践

2-1. 事例からみる価値

スペキュラティブデザインの応用はビジョン策定・経営戦略・新規事業探索・企業文化醸成など多岐にわたり、目的に応じ他の手法と組み合わせることで、より実装への接続を強めた創造的思考を発揮する。本稿で注目する企業・組織での実践事例：米国Allstate¹⁴（保険）、デンマークSPACE10/IKEA¹⁵（独立ラボ）、豪クイーンズランド州交通局×QUT¹⁶（公共・大学）からは、特に重要な3つの価値：①既存事業の再定義、②長期視点の事業設計導入、③利害関係者の対話促進が引き出されている（図表6）。

図表6：企業・組織におけるスペキュラティブデザイン応用事例

	事例1 既存事業の再定義	事例2 長期視点の事業設計導入	事例3 利害関係者の対話促進
注目した事例	インシュアテック台頭による保険再考：免許取得前の若者と家族のリスク観を「人生の保護」へ拡張 ● オールステイト アメリカ 保険 2019年 	都市化・気候変動・孤独の時代：独立ラボで20年先の未来の衣食住のかたちを公開実験 ● SPACE10 / イケア デンマーク 独立ラボ 2015-2023年 	2032年ブリスベン五輪の契機：当事者参加型ワークショップで未来の包括的モビリティを共創 ● クイーンズランド州交通局×QUT オーストラリア 公共・大学 2025年 
取り組み	● 運転者になる前の若年層と親から自立する成人への移行期に焦点を当て「未来の保険」を探索。 ● 既存サービス群を「保護」というソリューションの枠組みで再定義。 ● 部門横断的な企業ビジョン：Empowering customers with protectionの強化に貢献。	● 家具会社という枠での短期業績視点を超え「未来の暮らし方」を探索。 ● 8年間限定で独立ラボを設立。終了後も2025年ニューヨーク気候などで未来構想の展示・提案を継続。 ● IKEA本体の中長期事業戦略へ、ラボから得られた成果を還元。	● 移動制約を持つ市民の当事者12名と共に、都市生活・資源・気候変動・食料・孤独などを起点に「未来の公共交通」を探索。 ● アクセシビリティ・インクルージョン政策の検討に役立つ成果を抽出。
応用・手法	● ユーザー観察調査で、生活実態を深く理解するためのリサーチを実施。 ● スペキュラティブデザインで、未来の保険体験をサービスツールとして可視化。	● スペキュラティブデザインで、プロトタイプを生活空間や製品として具体化。 ● オープンソースで公開・展示。	● プレインストーミング、ユーザージャーニーマップ、シナリオなどを用い、相互流動的に対話を醸成。 ● スペキュラティブデザインのプロセスを応用した独自のワークフレームを産学共同で開発・適用。
事例からの示唆	● 既存事業の目的・意味そのものを問い直し戦略的方向性の再定義へ貢献できる。	● 短期業績サイクルとは別軸の探索体制を設け、長期的な社会変化を起点に事業構想を描くことができる。	● 目的に合わせたフレームワーク体系化と当事者参加により、複雑な社会課題に対する本質的な共創を構造化できる。

出所：Kuester & Prescott (EPIC 2019)、SPACE10 / IKEA 公式サイト、Cardenas Cordova et al. (2026) から三井物産戦略研究所作成

¹⁴ Allstate：Kuester, B. & Prescott, M. (2019) “Speculative Futures Inside Corporate Realities.” Ethnographic Praxis in Industry Conference Proceedings, 2019. <https://www.epicpeople.org/wp-content/uploads/2023/08/CS-Kuester.pdf>

¹⁵ SPACE10 / IKEA：2015～2023年にかけてIKEAブランドの未来の暮らしを探究した外部型の研究・デザインラボとして活動。Inter IKEA Systems B.V.との協働・支援のもと、都市生活、食、住環境、AI、サステナビリティ等の長期的探索を実施した。<https://space10.com/>

¹⁶ 豪クイーンズランド交通局とQUT研究者による共同研究：Cardenas Cordova, D., Kelly, N., Rezayan, L., & Sandall, J. (2026) “Methodological Application of Future Envisioning: A Speculative Design Case Study in an Organisational Context.” Archives of Design Research, 39(1), pp. 103-127. <https://doi.org/10.15187/adr.2026.02.39.1.103>

2-2. 実践上の課題

一方で、これらの実践を継続的な取り組みとして定着させるには難しさが伴う。成果が「問い」や「対話の変化」として現れるため短中期の指標に直接結びつかず、批評性を含むアウトプットは組織文化によっては受容されにくい。また、未来の兆しやトレンドの収集といった分析的未來洞察の上流工程はスペキュラティブデザインにも適用されるが、シナリオの根拠や成果の質を評価する基準が確立されていないという指摘もある¹⁷。客観的な根拠と成果の柔軟さを両立する方法は、なお発展途上にある。

企業の事業検討では「なぜその未来を想定するのか」という論理的根拠が不可欠であることから、不確実性やインパクトの分析に強みを持つ手法との補完をいかに設計するかが鍵となる。こうした課題は、先進事例においても共通して顕在化しているが、分析的手法との統合や長期テーマへの適用、参加型のプロセス設計等の対応により、糸口は見いだせる（図表7）。

図表7：スペキュラティブデザインのビジネス応用における課題と糸口



出所：三井物産戦略研究所作成

3. 事業に資するための視座

3-1. スペキュラティブデザイン応用の検証

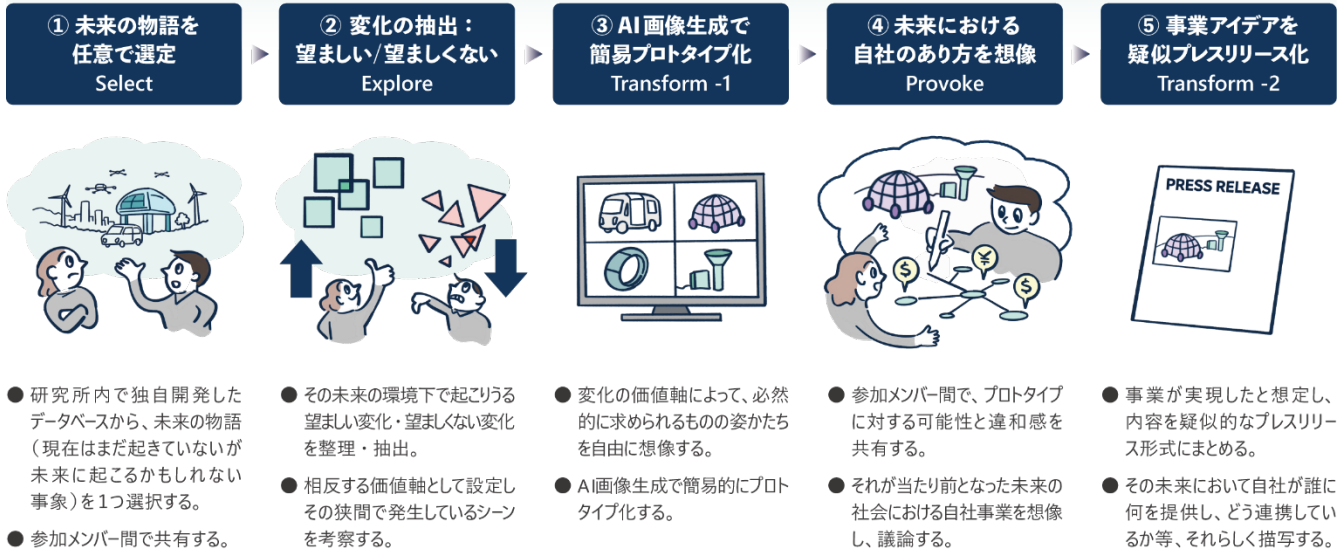
三井物産戦略研究所では多領域で長期的な意思決定を伴う総合商社の事業文脈を念頭に、2-2で整理した課題への応答として、次の3視点：①分析的手法と創造的手法の補完による新視点獲得、②未来志向の事業設計、③当事者意識の醸成・向上を企図したワークショップを設計し、技術と経済の専門領域を持つ4名の研究員を対象に試行した。

ワークショップでは、未来に起きるかもしれない事象の物語を起点に、スペキュラティブデザインの中核である具現化を行った。まず、未来の中で望ましい変化・望ましくない変化を抽出、それらによって必然的に求められるものを想像し、簡易的にプロトタイプ化するためAI画像生成を使用した（図表8）。

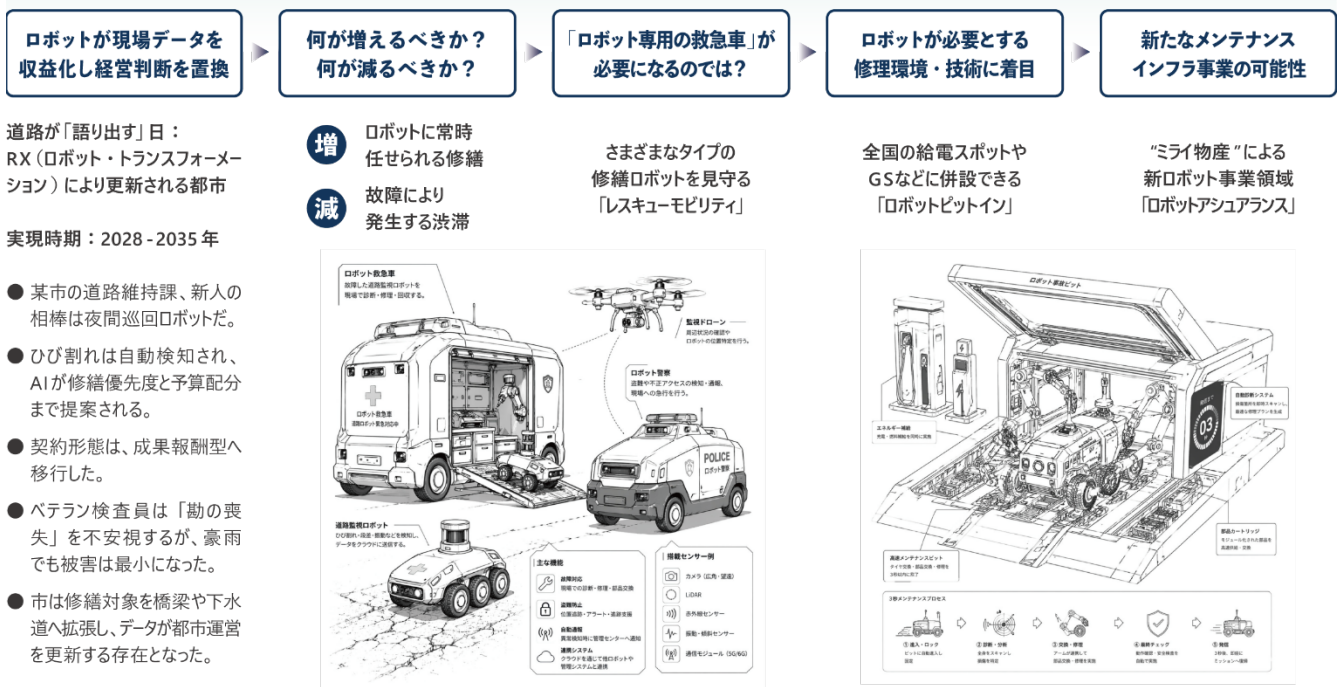
¹⁷ 批評的デザインの批評性の質を評価する基準の不足を指摘。Bardzell, J. & Bardzell, S. "What is 'critical' about critical design?" CHI'13, 2013. <https://doi.org/10.1145/2470654.2466451>

図表8：三井物産戦略研究所でのワークショップ・テストラン

ワークショップで試行したスペキュラティブデザインのプロセス ※シナリオ選択式・事業アイデア発想を含む5段階にカスタマイズ



「2035年・無人インフラ点検」という未来の事象を題材とした議論・発想の流れ



試行時の留意点

研究所発行のレポートに基づき明確な根拠を得た事実・分析から生成された「未来の物語」を使う。

分析的な議論よりも、創造的な議論に参加者が没頭できるようにする。

シナリオ構築のプロセスを省略し、「未来の物語」を選択することでシナリオの世界観への没入を促す。

業務に多忙なメンバーの参加障壁を可能な限り下げながら、長期視点を設定する。

専門領域理解と制作の効率化のためAI生成を含めるツールを使用する。

創造的発想の場やデザインに馴染みのない参加者が楽しんで制作できる環境を整える。

参加メンバーの専門領域

三井物産戦略研究所 研究員
産業社会情報部（1名）
● IT/DX産業
フォースイトセンター（3名）
● IT/DX産業
● 地域・国際経済
● 技術産業動向分析

最後に、それが既に当たり前となった社会における自社事業を想像し、未来のプレスリリース形式にまとめた（図表9）。

図表9：三井物産戦略研究所でのワークショップ・テストラン|2036年の未来・事業アイデアをまとめた疑似プレスリリース

MiRAi & Co.

報道関係者各位

PRESS RELEASE

2036年6月15日
MiRAi 物産株式会社

MiRAi物産、自治体向け「ミライ・インフラ・アシュアランス・プラットフォーム」を始動 ～ロボティクスとデータでインフラを長寿命化・成果連動型で財政負担の最適化に貢献～

MiRAi 物産株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役 社長 CEO：未来 創造（みらい・そうぞう）、以下「MiRAi 物産」）は、インフラの点検・診断・修繕判断までを一気通貫で支援する自治体向けサービス「ミライ・インフラ・アシュアランス・プラットフォーム（MiRAi Infrastructure Assurance Platform：通称、MIAP）」の提供を本日より開始します。

MIAPは、当社が有するロボティクス、データ解析、ファイナンス、保険、事業運営の知見を組み合わせ、道路・橋梁・トンネルなどの社会インフラを対象に、劣化の予兆検知から修繕優先順位の提案、成果連動型の維持管理までをワンストップで提供するものです。

自治体の厳しい財政状況や技術者不足といった社会課題に対し、民間のノウハウとリスク引受管理の仕組みを活用することで、持続可能なインフラマネジメントの実現を目指します。

MIAPの特徴

- ロボティクスによる24時間モニタリング**
自走式点検ロボットやドローン等が道路・橋梁などの状態を継続的に取得・分析。
- AIによる劣化予測と最適な修繕判断**
蓄積データとAIを活用し、修繕の優先順位や最適広報、予算計画を提案。
- 成果連動型の契約モデル**
「損傷率の低減」、「通行止め時間の削減」等の成果に応じた対価設計により、財政負担を平準化。
- リスク引受管理とファイナンス支援**
保険・再保険やグリーンボンドの活用により、長期安定的な事業運営を支援。

実証・展開について

- 本プラットフォームは、2035年度より国内複数自治体にて実証を開始し、2037年度以降の全国展開を目指しています。また、将来的にはアジアを中心とした海外展開も視野に入れています。
- MiRAi 物産は、本プラットフォームを通じて、社会インフラの持続可能性向上と地域経済の活性化に貢献するとともに、データとテクノロジーを活用した新たなインフラ産業の創出を目指してまいります。



プラットフォームスキーム（イメージ）

データ取得
ロボット・センサー郡

データ解析
AI 解析・劣化予測

意思決定支援
修繕優先度・予算計画の提案

実行・モニタリング
修繕実施・効果検証
継続モニタリング

成果連動の支払い
成果に応じた対価の支払い

【本件に関するお問い合わせ先】
MiRAi 物産株式会社 広報部（報道関係者窓口）
公式サイト「お問い合わせフォーム」よりご連絡ください。

出所：三井物産戦略研究所作成 ※この疑似プレスリリースは、ワークショップ・テストラン検証用に創作した架空の成果物です。

3-2. 検証結果

参加した研究員からは、プロセスを追う際に「いかに発想するか」という迷いやためらいの反応はありつつも、シナリオプランニングを含む従来の方法では描き切れなかった新しいアイデアを導き出し、事業検討に有効となりうる視点を得ることができた。「文字やイラストだけのシナリオよりも、具体的なイメージが湧いた」、「未来仮説に対する当事者意識がより高まった」、「これまでとは違う未来のシーンを発想できた」といった評価が得られた。

これらの反応は、3-1で示した検証の3視点に沿うものであった。分析と創造を統合する設計が新しい視

点を引き出し、未来の物語を起点とすることで長期的な社会変化が事業構想の条件となり、具現化は当事者意識の醸成に寄与する可能性が示された。一方、得られた視点や事業アイデアを具体的な意思決定にどう接続していくかは引き続き課題であり、事業に資する創造的未來洞察として機能するための、方法論の精緻化が今後も重点となる。

まとめ

創造的未來洞察としてのスペキュラティブデザインが、分析的未來洞察と相互に補完しうることを考察し、企業事例から課題とそれに対する糸口を整理したうえで、総合商社の事業文脈における検証を試みた。これを通じて得られたのは、「複雑な問題が蔓延する現代に潜む〈今・ここにはない未来のかたち〉は、創造的な思索を通じて、私たち1人1人の中から立ち上がる」という示唆だ。精緻な予測・予想のみに依存せず、未来への当事者意識を高め問題提起する力こそが、不確実な時代の長期的な意思決定と事業構想を支える。未來洞察を通じて前提に向き合う創造的な思索を事業の意思決定といかに結ぶか、探求を続けたい。

当レポートに掲載されているあらゆる内容は無断転載・複製を禁じます。当レポートは信頼できると思われる情報ソースから入手した情報・データに基づき作成していますが、当社はその正確性、完全性、信頼性等を保証するものではありません。当レポートは執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社および三井物産グループの統一した見解を示すものではありません。また、当レポートのご利用により、直接的あるいは間接的な不利益・損害が発生したとしても、当社および三井物産グループは一切責任を負いません。レポートに掲載された内容は予告なしに変更することがあります。